

**製品名: MDMX ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13760**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	45kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MDM4
別名	MDM4; MDMX; Protein Mdm4; Double minute 4 protein; Mdm2-like p53-binding protein; Protein Mdmx; p53-binding protein Mdm4
遺伝子 ID	4194.0
SwissProt ID	O15151
免疫原	抗血清はヒト MDM4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 336-385

**背景**

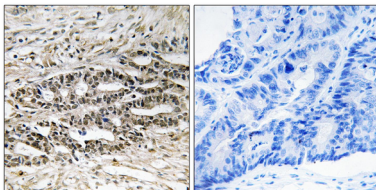
この遺伝子は、N 末端に p53 結合ドメイン、C 末端に RING フィンガードドメインを持つ核タンパク質をコードし、p53 結合タンパク

質 MDM2 と構造類似性を示す。両タンパク質は p53 腫瘍抑制タンパク質に結合してその活性を阻害し、様々なヒト癌で過剰発現することが示されている。しかし、p53 を分解する MDM2 とは異なり、このタンパク質は転写活性化ドメインに結合して p53 を阻害する。また、このタンパク質は RING フィンガードメインを介して MDM2 タンパク質と相互作用し、後者の分解を阻害する。そのため、このタンパク質は、p53 のトランス活性化とアポトーシス機能の抑制を維持しながら、MDM2 を標的とした p53 の分解を逆転させることができる。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが知られている。[RefSeq 提供、2011 年 2 月],代替製品: 追加のアイソフォームが存在すると思われる,ドメイン: 領域 I は p53 に結合し、G1 期停止およびアポトーシス機能を阻害するのに十分である。また、p73 にも結合する。領域 II は、中央の酸性領域の大部分と、推定 C4 型ジンクフィンガーを含む。2 分子の亜鉛を配位する RING フィンガードメインは、MDM2 とのヘテロオリゴマー形成を媒介する。機能: 転写活性化ドメインに結合することにより、p53 および p73 を介した細胞周期停止およびアポトーシスを阻害する。MDM2 の分解を阻害する。p53 のトランス活性化とアポトーシス機能の抑制を維持しながら、MDM2 を標的とした p53 の分解を逆転させることができます。質量分析: PubMed:11840567,類似性:MDM2/MDM4 ファミリーに属します。類似性:RanBP2 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。類似性:RING 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。類似性:SWIB ドメインを 1 つ含みます。サブユニット:p53、p73、および MDM2 に結合します。組織特異性:テストしたすべての組織で、胸腺に高レベルに存在します。、

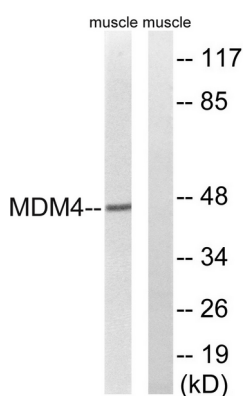
## 研究分野

p53;

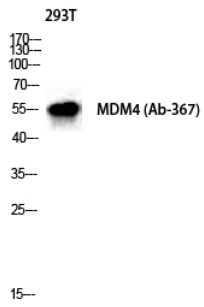
## 画像データ



MDM4 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



MDM4 抗体を用いたラット筋細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンに合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した MDMX ポリクローナル抗体を使用した 293T 細胞のウエスタンブロット解析。